

「新時代とやまハイスクール構想（仮称）」 基本方針（素案）【概要版】

～学びたい、学んでよかったと思える県立高校づくり～

I. 令和20年度までに実現を目指す県立高校の姿

1. 県立高校を取り巻く状況の変化

《社会の変化》

- 科学技術やグローバル化の進展
- 人口減少の進行など

《大学の変化》

- 入試方法の多様化

《生徒の変化》

- 興味・関心、進路希望の多様化
- 多様な教育ニーズへの対応
(不登校生徒、外国籍生徒、特別支援教育など)

今後の予測が困難な
「新時代」の到来



これまでの実績を踏まえ
県立高校における
教育のあり方
を考える必要がある。

2. 県立高校の基本目標

基本
目標

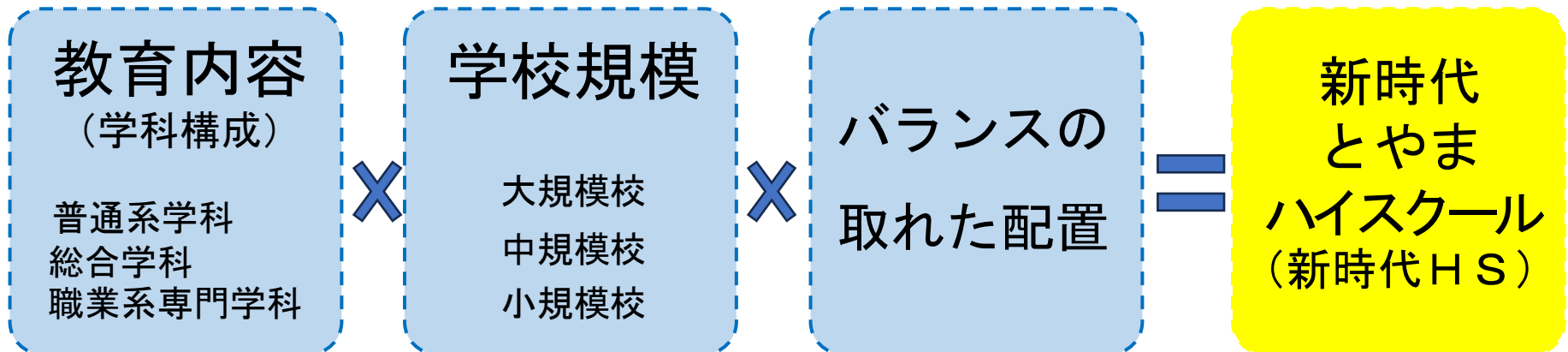
「新時代」に適応し、未来を拓く人材の育成

予測困難な時代において、生徒が社会の変化やニーズを的確に読み取り、様々な人々と協働して社会参画できるよう、個別最適な学びと協働的な学びを組み合わせながら、生徒一人ひとりの生きる力とレジリエンスを育み、「ウェルビーイング」の向上を図る。

3. 新時代とやまハイスクール構想(仮称)

(1) 新時代とやまハイスクール(仮称)の開設

- 基本目標を実現するため、現在の全ての県立高校(全日制)を再構築して新たな学校を開設



(2) 教育内容（学科構成）

区 分		教育内容	中高 一貫	バカ レア※2	外国 人枠	全国 募集
普 通 系 学 科	①スタンダード	共通教科の学習が主体				
	②STEAM ※1	探究活動や教科横断的な学びを実践	○			
	③グローバル	国際感覚をもって海外と関わる人材の育成	○	○		○
	④未来創造	スポーツや芸術文化、データサイエンスを重点的に学習、部活動の強化				○
	⑤地域共創	地域の企業や高等教育機関と連携した教育活動				○
	⑥エンパワーメント （自己発見）	基礎学力の習得を習得し、自己肯定感を高め、生きる力を育成			○	
⑦総合学科	キャリア教育を通して進路希望を明確化、普通教育と専門教育の選択履修が可能			○		
⑧職業系専門学科	各分野で即戦力となるスペシャリストを育成					

※1「STEAM」 Science(科学)、Technology(技術)、Engineering(工学)、Arts(リベラル・アーツ)、Mathematics(数学)の5分野の学習により、問題発見・問題解決に生かしていくための教科横断的な教育

※2「バカロレア」=国際バカロレア認定校 国際的に通用する大学入学資格（IB資格）が取得可能な教育プログラム

(3) 学校規模

学校規模	大規模校 (1学年400~480人)	中規模校 (1学年200~240人)	小規模校 (1学年120人以下)
設置のねらい	<ul style="list-style-type: none">・ 令和20年度以降も見通した拠点校として設置・ 複数の学科が設置され、多様な考え方に接することで、他者と協働して社会参画できる力をより高める。	<ul style="list-style-type: none">・ 現在の平均的な学校規模より大きくすることで、教員配置及び開設科目、部活動の数等を充実させ、生徒の選択肢の幅を広げる。	<ul style="list-style-type: none">・ 小規模校ならではの特色ある教育活動を展開・ 長期的なニーズ、通学時間も踏まえ地域バランスなどに配慮し、生徒の選択肢を確保
施設等	<ul style="list-style-type: none">・ 拠点校として長期的に使用することなどを考慮し、新築等に対応する。	<ul style="list-style-type: none">・ 現在の高校施設の活用を基本としつつ、必要に応じて施設設備の改修等を行う。	<ul style="list-style-type: none">・ 現在の高校施設の活用を基本とする。

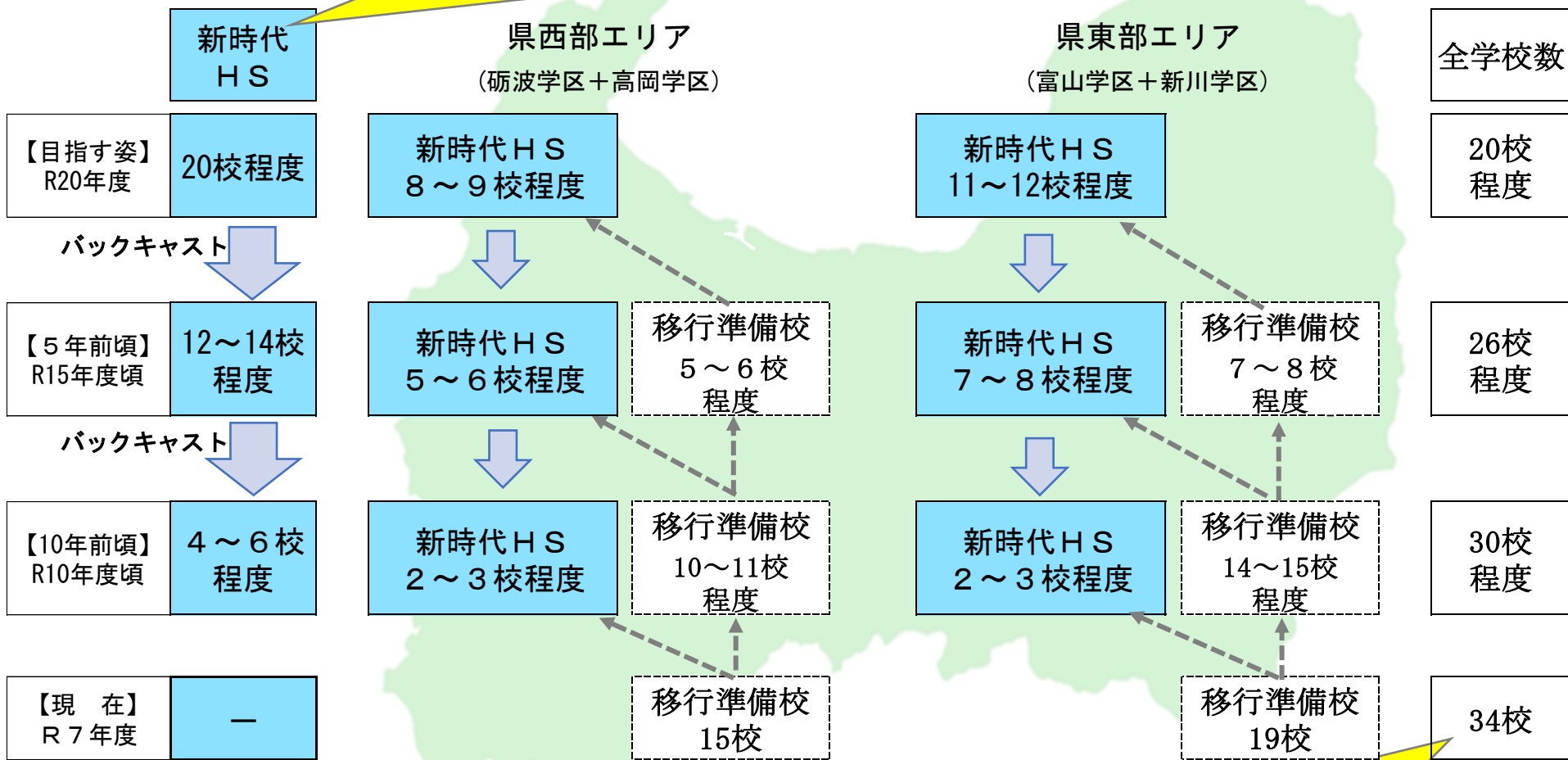
(4) 教育内容（学科構成）と学校規模の組合せ、配置数の目安

		大規模校				中規模校					小規模校		
		A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	
普通 系 学 科	①スタンダード	○	○	○			○		○				
	②STEAM	○		○		○							
	③グローバル	○		○		○							
	④未来創造	○	○	○			○				○		
	⑤地域共創	○	○	○			○				○		
	⑥エンパワーメント （自己発見）						○	○					
	⑦総合学科							○					
	⑧職業系専門学科		○	○	○				○	○		○	
令和20 年度の 配置数 目安	全県 （20校程度）	募集定員目安 4,200人程度 ※	2～3校				13～15校					3～4校	
	県東部エリア （11～12校程度）	募集定員目安 2,520人程度 （60%）※	1～2校				8～10校					1～2校	
	県西部エリア （8～9校程度）	募集定員目安 1,680人程度 （40%）※	1校				5～6校					1～2校	

※ 募集定員目安は、現行の公私比率70.8%で試算した。

Ⅱ. 「目指す姿」から逆算的に考える「配置の姿」

- ①令和20年度に20校程度の新時代HSを設置
- ②バックキャストでその5年前頃、10年前頃までに目指す「配置の姿」を描く。



- ③現在の全ての県立高校(全日制)を「移行準備校」に位置付け、学科改編等の準備を進める。

Ⅲ. 「目指す姿」の実現に向けた検討方針

	R7年度	R10年度頃	R15年度頃	R20年度頃
1. 新時代HSの開設、既存高校の再編統合	<p>検討組織の設置</p>	<p>第1期 4～6校程度開設</p> <p>新時代HS 4～6校程度</p>	<p>第2期 6～10校程度開設</p> <p>新時代HS 12～14校程度</p>	<p>第3期 6～8校程度開設</p> <p>新時代HS 20校程度</p>
2. 学科・コースの改編等	<p>開設方針決定</p>	<p>新時代HS開設に伴う学科・コースの改編</p>		
	<p>直ちに取り組む 学科等の魅力化</p>			
3. 様々なタイプの学校・学科の開設	<p>(1) 中高一貫校の検討（～準備～開設）</p> <p>(2) その他の検討・方針決定（～開設準備～開設）</p>			
4. 施設・設備等の整備	<p>(1) 大規模校の設置方針決定～整備構想策定～計画策定～工事～開設</p> <p>(2) 中・小規模校となる既存施設の長寿命化等検討～計画策定～工事～開設</p> <p>(3) 不使用となった校舎等、跡地の有効活用の検討</p>			
5. 活力ある学校・組織づくり	<p>(1) 民間人材の活用等、教育効果を高める学校運営の検討・実施</p> <p>(2) 教員のウェルビーイングの向上、教員確保のための環境整備</p>			

今後の進め方

令和6年度

- 基本方針（素案）に関する、幅広い意見を聴取
（地域の教育を考える「ワークショップ」、「意見交換会」など）
- 今年度中に基本方針を策定

令和7年度

- 「新時代とやまハイスクール構想検討会議（仮称）」を設置

《検討内容》

- ① 大規模校の設置方針（学科構成、設置場所など）
- ② 各期に開設する新時代HSの方向性
- ③ 第1期校の開設方針と各校の教育内容等
- ④ 第1期校の開設に必要な再編統合

※ 「新時代ハイスクール構想（仮称）」基本方針（素案） →

<https://www.pref.toyama.jp/300203/kurashi/kyouiku/gakkou/kihonhosin/kihonhosin.html>

詳細はこちら

